

全日制課程 第58回卒業証書授与式式辞

立春からひと月余り。寒気も緩み、過ごしやすい季節となりました。

このよき日、御来賓、そして保護者の皆様に御臨席いただき、第五十八回卒業証書授与式を挙行できますことを誠に嬉しく思います。

本日、晴れて母校を巣立つ五十八期生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

およそ三年前。皆さんが本校受検に臨む前日、全国の学校一斉臨時休業のニュースが流れました。世の中が激変したあの時期に、皆さんは入学しました。新入生と教職員のみで行った、前例のない形での入学式。その後も五月末まで続いた臨時休業。今なお続く、コロナ感染症と共存する営みの始まりでした。

当時、人類はまだワクチンなど感染をコントロールする手段を持っておらず、人との接触を極限まで減らして感染ピークを遅らせ、時間を稼ぐしかありませんでした。学校とは本来、友と語り、肩を抱き、時にぶつかり合って、考えの違いを乗り越えたり相互理解を深めたりしながら、人として成長していく場であるべきです。その在り方と相反すること、——「人と距離をとれ」「会話を控えろ」「黙って食べろ」——言い方はこのとおりでないにせよ、こうした「人と密接に関わるな」という方向の要求をし続けなければならない状況でした。生徒はもちろんもどかしい思いだったでしょうが、教職員の側も胸の痛む、追い込まれた状況でした。その時以来の思いをテーマとして、エンタテインメントの形で表出したのが、先日の三送会で教員団が演じた「ココロの距離を斬れ」という演目でした。印象深かったのではないのでしょうか。同じ時、同じ場所に集い、語り、歌い、体を使って表現する。そのことでどれほど豊かに感情を共有できるか。教員団の思いが舞台に溢れていました。

皆さんの高校生活三年間は、「想定外」と「急変」の連続でした。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発出のたびに、行動の基準が変わり、教育活動のガイドラインもそれに呼応して変化しました。一斉休業、分散登校、学級閉鎖、大会やコンクールの相次ぐ中止などに翻弄され、思い描いていた高校生活とは異なる、不本意な場面が多々あったことと思います。しかし、想定外や急変に対応し続けた経験自体は、貴重な学びであって、ネガティブにばかりとらえるべきではありません。そもそもパンデミックが起こる以前から、現代は「予測困難で、変化のスピードが非常に速い時代である」と言われていました。コロナパンデミックは、いくつかの分野で元々起こっていた変化をさらに加速した面があった

のだと言えるでしょう。オンラインの通信アプリケーションを使ったビデオ会議は元々ありましたが、企業はもちろん、学校を含む社会の隅々にまで一気に普及しました。それに伴い、通勤を前提としない働き方、通学を前提としない学び方も広がりました。試行錯誤を経て、今、学校では、ClassroomやMeet、Formなどのアプリを活用した配信と対面でのコミュニケーションとを併用した学習スタイルが確立しています。学級閉鎖などでオンライン配信だけに頼らざるを得なくなった経験から、逆に対面のよさ、強みを意識的に生かせるようになったし、同時にオンラインの強みも生かせるようになりました。行事や部活動の場面でも、厳しく制限された経験を経て、活動する意義、できる喜びを再認識でき、活動の質と時間の使い方を見直すこともできました。今年度、三年ぶりにお客様を迎え入れたけやき祭では、生徒会本部でも実行委員会でもノウハウの蓄積は失われており、模倣する手本を持たない中で、ゼロベースから行事を創り上げました。前例踏襲ではない、新たな学校文化が芽吹いたと思います。再び生まれるという、真の意味での再生です。

総じて、生徒諸君は、失われたものを嘆くよりも、使える時間と資源を生かして、たとえ想定外であったとしても豊かな高校生活を送ってくれたと思っています。素晴らしいことです。ものごとが思い通りにいかないのはよくあること。そのたびに得られなかったものを嘆き、時代や人を恨んだところで、あなたは成長しない。うまくいかない時こそあなた自身を変化させる機会ととらえる。その逆境に学び、適応する。それはあなたの成長です。自らの思考と行動により、逆境を順境に転ずることのできる人が強いのです。この先も「想定外」や「急変」に見舞われることはあるでしょう。そのたびに自らのスキルを更新し、成長しつつ乗り越えてほしいと思います。

さて、以前、「競争局面の先に求められるのは協働する力だ」という話をしました。そのことをもう一度言っておきたいと思います。競争の局面では、常に「私の最適解」を求めようとします。「他者よりも先にゴールに到達することを目指し、私は私の最短距離を進む」ことに徹します。こうして競い合うことで、個々の能力が強化されていきます。しかし、競争自体が目的ではありません。社会の中で生きていく上でより大切なのは、人とつながり、「私たちの最適解」を求める力です。自分の能力を差し出すとともに、仲間の協力を求め、利害を調整し、力を合わせて課題を解決していく力です。これは、「学ぼう ともにひたむきに」「創ろう ともにおおらかに」と校歌に謳う朝霞高校の理念そのものです。人とつながり協働する。その中で、皆さんが持つ素晴らしい能力を生かしてください。この先所属する組織の中で、地域社会で、家庭で。そうして実り豊かな人生を歩んでほしいと思

います。

保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。入学式には御出席いただけなかったこともあり、今日、かくも多くの皆様に御臨席いただくことができ、本当によかったと思っています。成年年齢が十八歳となり、お子様の高校卒業は、保護者にとって子育て卒業の大きな節目ともいえると思います。これまで、慈しみ育ててこられた様々な場面が思い浮かぶことでしょう。腕に抱いた時に感じた重さ、ぬくもり、匂い。忘れるものではありません。遠い過去のようにもあり、つい昨日のようにもある。そんなお気持ちかと拝察します。お子様は、今や堂々たる法律上の大人となりました。自己決定権の塊です。どうか大人として歩み始めるお子様を、最も身近な味方として、これからもお見守りいただければと思います。

では、五十八期生の皆さん、改めて皆さんの門出を心から祝福します。胸躍る季節。新しい出会い、新しい世界が皆さんを待っています。人とつながり、変化にはしなやかに適応しながら、自分を見失うことなく、あなたらしく人生を歩んで行ってください。朝霞高校は皆さんの輝かしい未来を応援しています。

令和五年三月十日

埼玉県立朝霞高等学校長 久住 毅